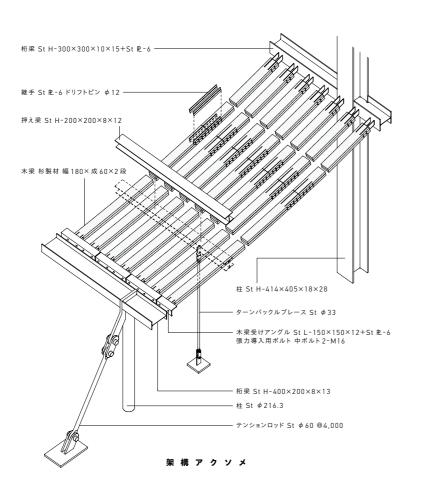


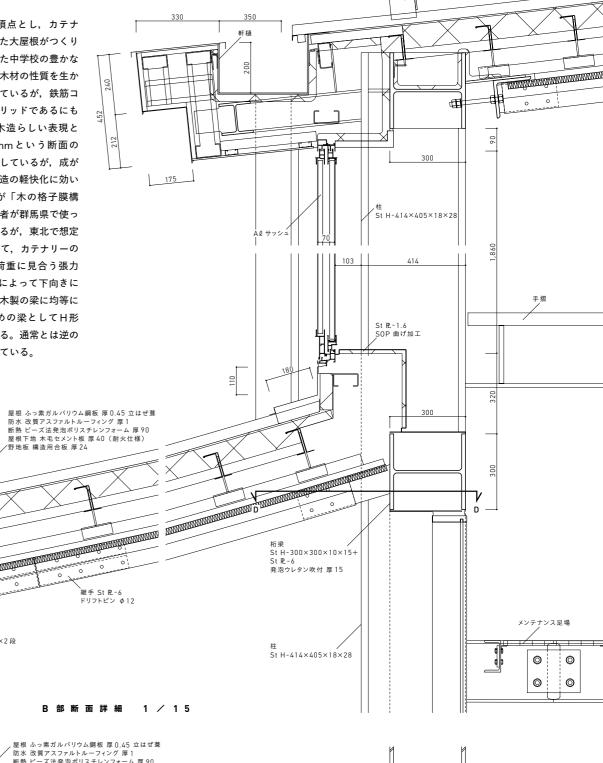


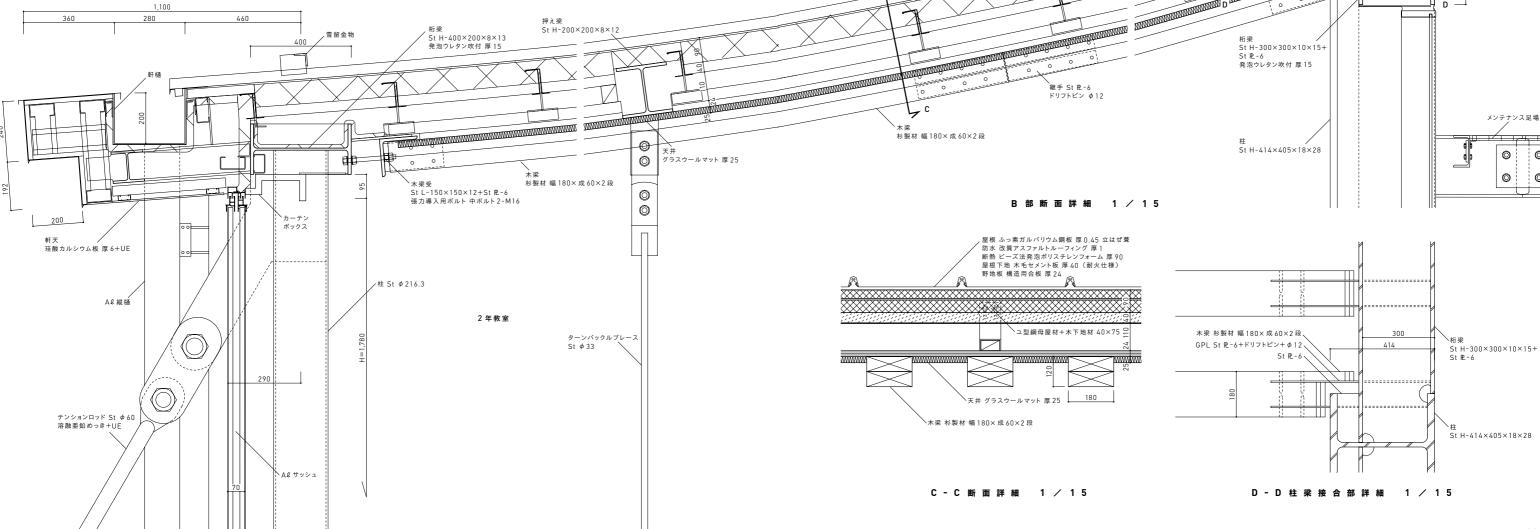


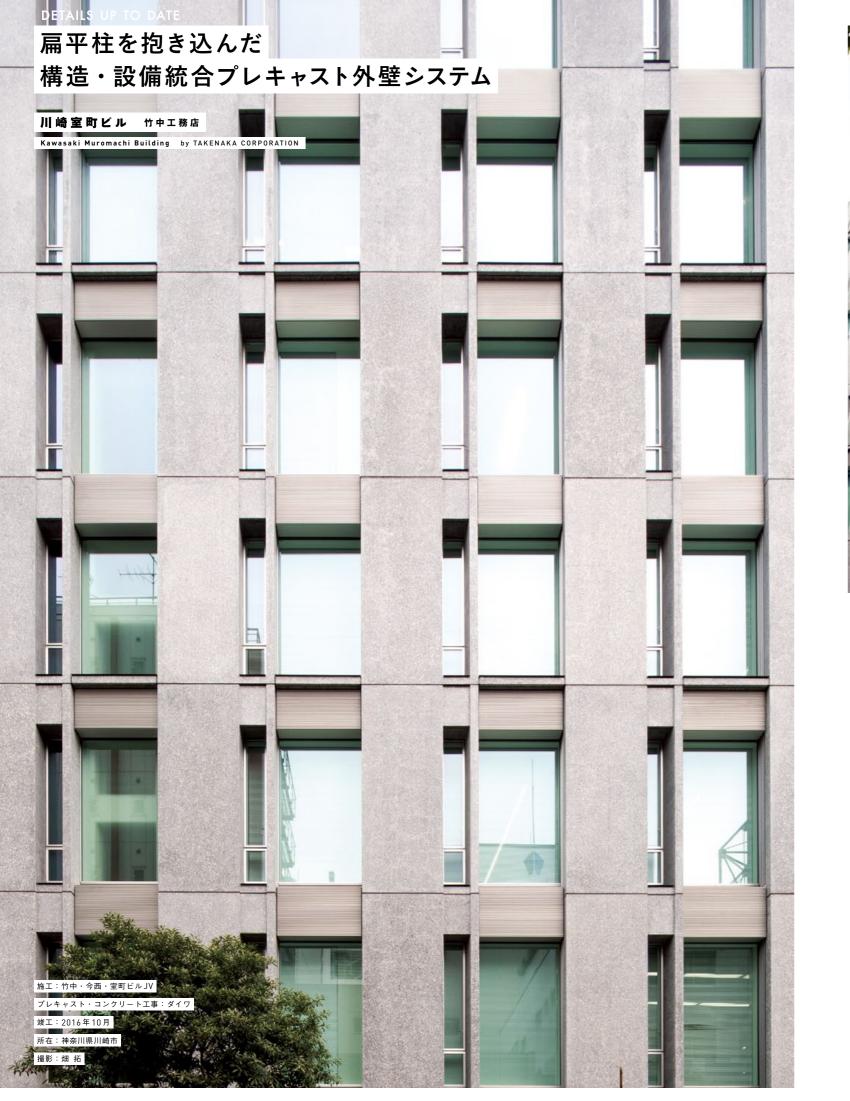
上:地組した木梁をクレーンにて吊り上げ、1本ずつ取り付ける。下:ターン バックルプレースを人力にて締め上げ、張力を導入する(写真提供:SALHAUS)



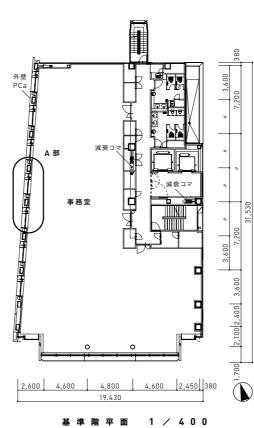
鉄骨による門型フレームを頂点とし、カテナ リー状に製材による梁を掛けた大屋根がつくり 出す、被災地の復興を目指した中学校の豊かな 空間である。引っ張りに強い木材の性質を生か し、製材をライン状に配置しているが、鉄筋コ ンクリート・鉄骨とのハイブリッドであるにも かかわらず、純木造以上に木造らしい表現と なっている。180mm×60mmという断面の 製材を、平に二段重ねて梁としているが、成が 大きくなりがちな大スパン構造の軽快化に効い ているのであろう。設計者が「木の格子膜構 造」と呼ぶ構造は、同じ設計者が群馬県で使っ た手法を発展させたものであるが、東北で想定 される積雪荷重への対応として、カテナリーの 中間部で、想定される積雪荷重に見合う張力 を,ターンバックルブレースによって下向きに 導入している。下向きの力を木製の梁に均等に 掛けるために、押さえのための梁としてH形 鋼が木梁の上に設けられている。通常とは逆の 配置が、空間表現を裏で支えている。

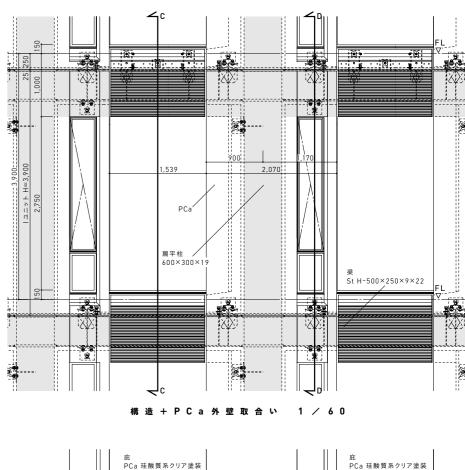


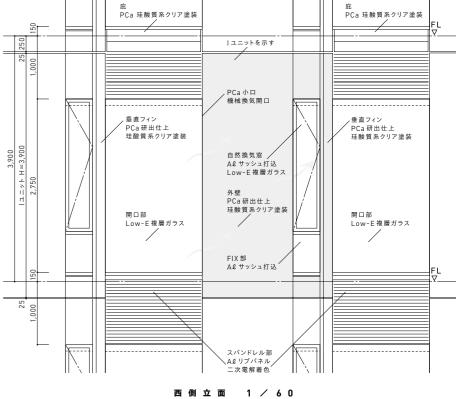


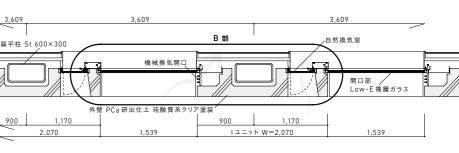




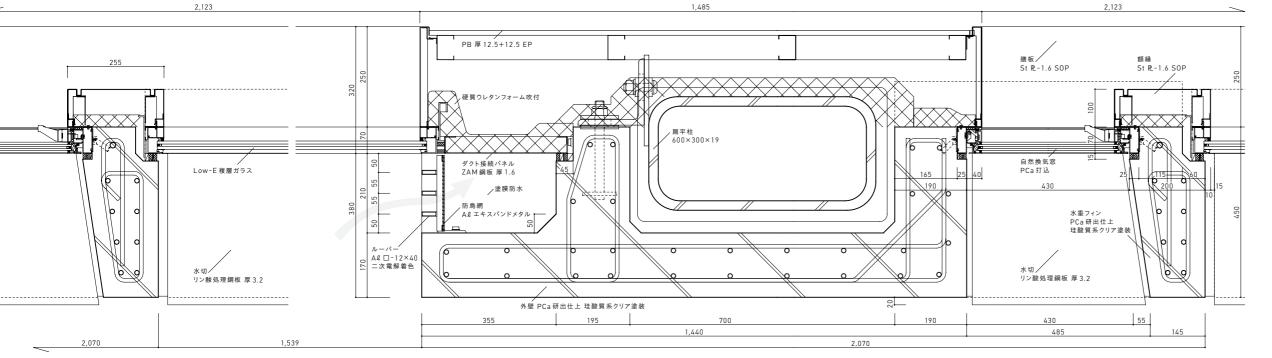






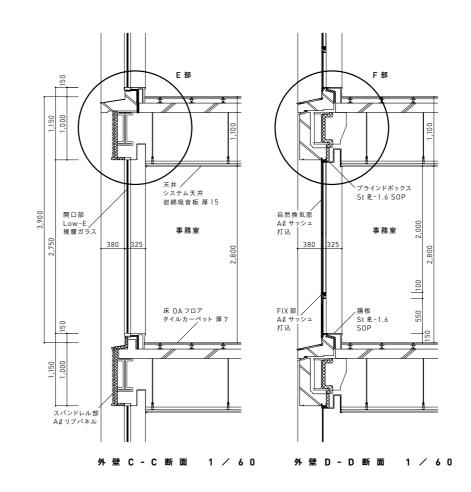


A 部 外 壁 平 面 1 / 6 0

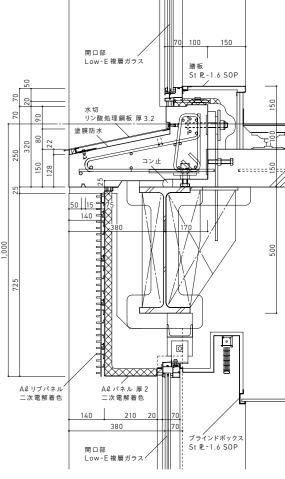


### P C a 外壁 B 部 平 面 詳 細 1 / 10

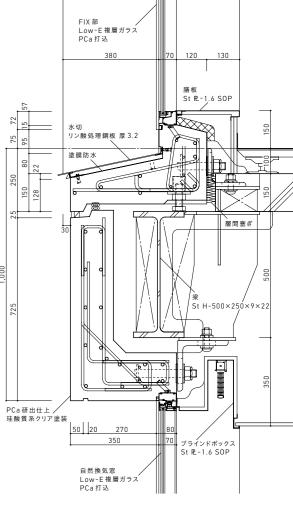




扁平柱に、窓開口はもちろんのこと、日照をカットする庇、自然換気口、さらには機械換 気口までを巧みにインティグレイトしつつ、わずかなダキを生かして、深い陰影を生み出 している作品。600mm×300mmの扁平S造の柱を、外周部にアウトフレームで配して、 まず部屋内から柱型を消し去っている。外部は、表面を研ぎだしたプレキャスト・コンク リートで仕上げているが、扁平をさらに強調するように柱両脇に袖を伸ばすように納めて いるのが特徴的。その袖の中に、400mmに満たないダキを生かすかたちで自然換気用の サッシュと竪庇状の垂直フィンが、逆の袖には機械換気用のチャンバーとルーバーとがダ +に隠れるように巧みに配されている。さらには、外部に露出した梁型部分のみアルミ材 で覆うことで、プレキャスト・コンクリートの柱型との間に明確なチリを生じさせ、わず かなダキの中で、シャープで彫りの深い外観を合理的に生み出している。



P C a 外壁 E 部断面詳細 1 / 15



P C a 外壁 F 部 断 面 詳 細 1 / 15

## 私の心を動かした階段

読者の皆様も,

階段は、人間が生み出した上下移動における 最大の建築的発明です。 そこには原初的な力が宿り、見るものに常に 新しい発見や驚きを与えます。 そこで、今回は52ページ以降に登場する 建築家の方々に「私の心を動かした階段」を 紹介していただきました。 古いもの、新しいもの、 素朴なものも、コンセプチュアルなものも、どれも 心に沁みるものばかりです。 設計者の世界観が 表れるようでもあり、興味をそそられます。

ご自分の心を動かした階段を思い出しながら、

読んでいただければ幸いです。

### セラルヴェス現代美術館 [アルヴァロ・シザ]

この階段は,石の彫刻のように 建物本体から離れて置かれてい る。下部のアーチは古典的な石 張りを想起させ、この階段のプ レシャスネスを際立たせてい る。上部には、管理用と思われ る子扉があり、手摺は開けられ たこの扉を「どうぞ!」とばか MAJOR CELINADO NO りによけて納められている。登 り口でも、手摺は脇に曲げら れ、左右から来る人を迎えるよ うである。あたかも、手摺にも てなされているかのように。

—— 矢板久明/矢板建築設計研究所





#### 撮影:彰国社写真部

# hhstyle.com

グリッドの中に階段を挿入した 平面はとてもシンプルで、それ 自体も美しかったが、実際の空 間で現れた緩やかな階段がつく る曖昧な境界には衝撃を受け た。ガラスで包んだり壁で包ん だり、階段のショーケースのよ うな空間は階段の魅力を存分に 教えてくれた。ガラスをささら の外で納めている部分などは ディテール的にも秀逸。

— 大西正朗 / PRIME

## チューリヒ中央駅 [Dürig AG]

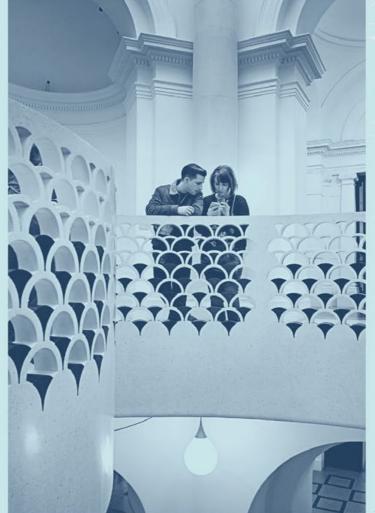
スイス・チューリヒ中央駅の無駄のない美しい階段。スイス の現代建築は、抑えた中庸的表現、素材感、ディテールなど が特徴。この階段はその特徴をよく表している。極端なミニ マム的表現に走らず、何気ないようで、不特定多数の人が使 うための、考え抜かれた美しい階段。

——陶器二三雄/陶器二三雄建築研究所

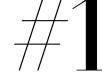


## テート・ブリテン、ミルバンク・プロジェクト [カルソ・セント・ジョン(改修設計)]

歴史に傾倒するのでもなく、かといって新旧の明示もな い,一つの階段に建物全体のあり方を象徴させる手法。 テート・ブリテンの螺旋階段は、増築が繰り返された歴史 的建物のなかで、既存装飾を参照することで、その入り乱 れた様式を架け渡し、洗練された納まりが全体を調停して いる。多種多様な要素が滑らかにつながっていく様に、現 代性を感じた。



※ 特記のない写真は筆者提供



# 手摺と 段板が一体となっ た片持ち階段

ヤマノイエ 津野建築設計室

House in the forest by Troom

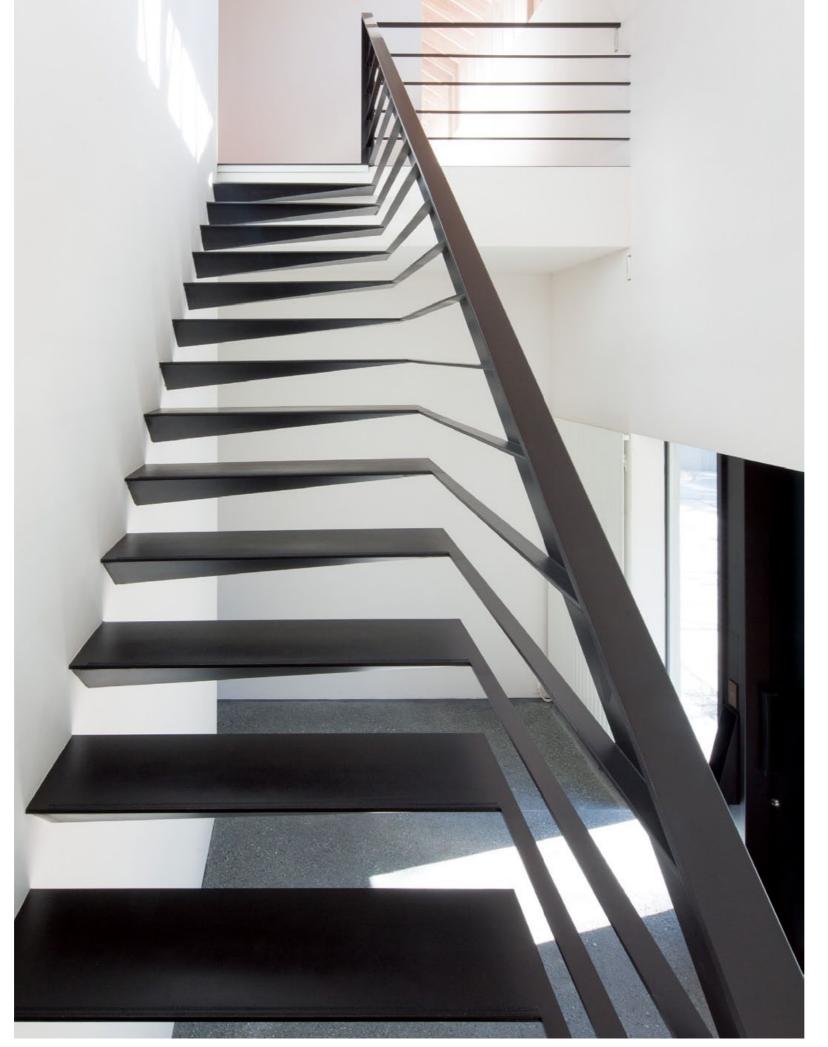
構造設計:鈴木啓/ASA

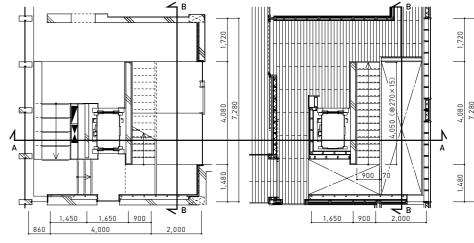
施工:佐藤秀 構造:木造一部RC造 規模:地下1階,地上1階

階段製作:ハコセン 竣工:2016年4月

所在:神奈川県足柄下郡箱根町

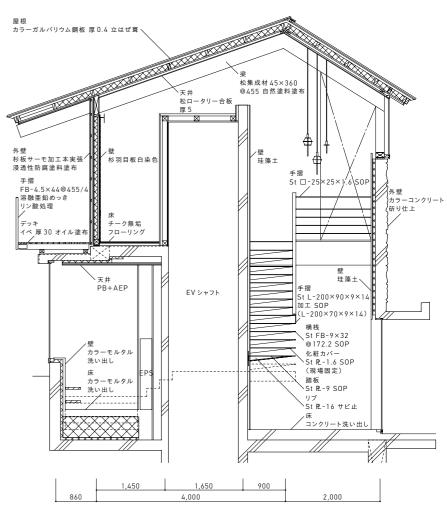
撮影:畑 拓





地下 1 階平面 1 / 150

1 階 平 面 1 / 150



A-A断面 1/80

この階段があるエントランスは、客人を迎え入び、それを自立した大きなアングル手摺で受け れる場なので、鮮烈な印象を与えられる空間に してほしいという要望を受けた。

そこで、玄関扉の前に白い大きな壁をつくり、 そこに土間から1m上がったレベルとメインフ 人の尽力で、見事に仕上げられた。羽根のよう ロアである1階を結ぶ、抽象的でシンボリック な階段をつくることを考えた。どのような形状 がよいかスタディを重ね、最終的にたどり着い たのが、軽快な片持ち階段から薄板の横桟が伸

るデザインであった。手摺と,横桟一体の段板 がそれぞれ独立した部材となっているため、現 場での精度の確保は困難を極めたが、監督、職 な段板とつながる横桟の連続によって、下から 見上げたときの形の面白さだけでなく、上がっ ていくときにも不思議な浮遊感を体験できる印 象的な階段となった。(津野建築設計室 松岡佑樹)

光と本棚で 織りなす ハイブリッド階段

# 大磯の家

by Tamotsu TESHIMA / t.teshima Architect & Associates

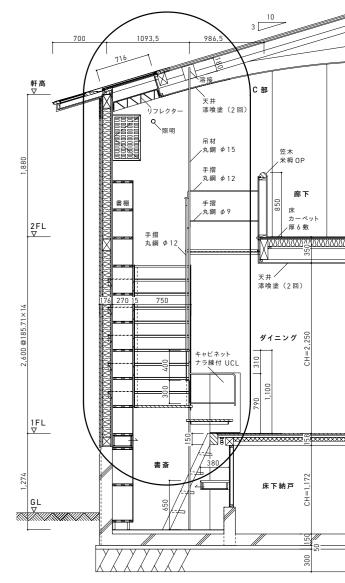
施工:安池建設工業 構造:木造 規模:地上2階 階段製作:かねたつ、大岡木工

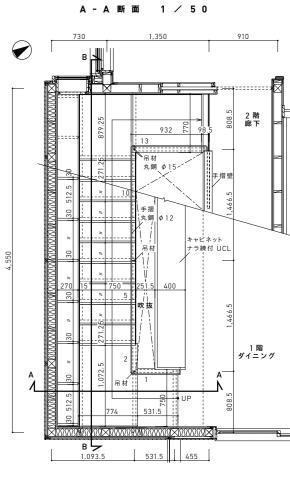
竣工:2014年6月 所在:神奈川県中郡大磯町

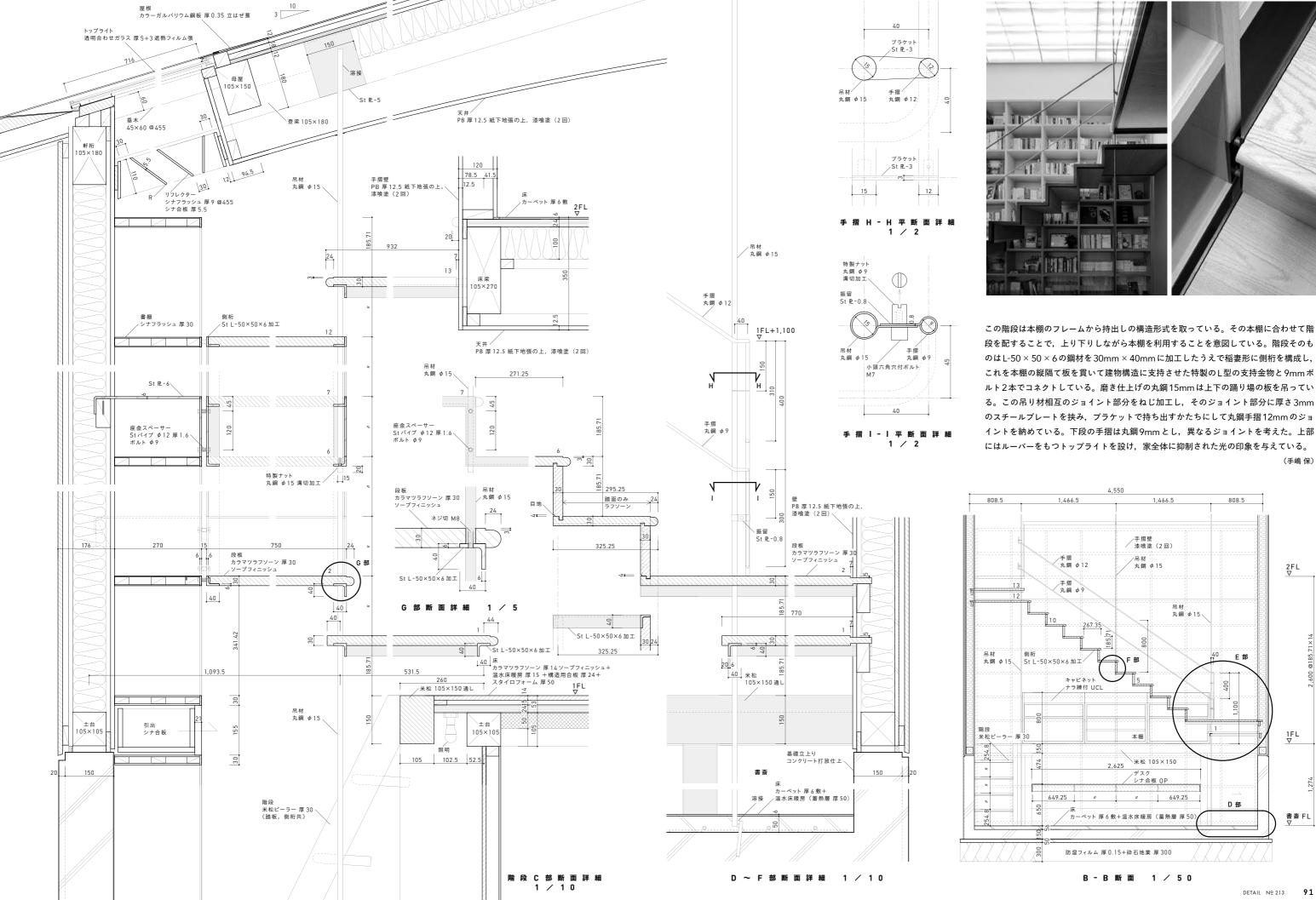












書斎FL

(手嶋 保)